

この他にも種々の図録の中に、傅山の書法作品が収録されているが割愛する。これらの刊行物には、一つのはっきりとした傾向がある。それは、紙面が2×8尺のような縦長の長条幅形式が、書道界における作品制作の流行となっているために、傅山の行草体の縦長作品に集中して刊行されていることである。上記の8、9などはその代表例である。

一方、純然たる注釈書や研究書は寥々たるもので、専門家が居ないに等しい。13～18の中で、おおよそ学者が関わっているのは14、15ぐらいである。書作のための技法解説が主であるため、傅山その人およびその思想全体にまで考察が及んでいるものは数少ない。制作と同様、学生の中には、傅山を卒業論文のテーマに選択する者もいるが、日本語で書かれた上記の研究書を参照する域を出ない。指導力不足は言うまでもないが、中国語で書かれた平明な研究書の登場を待つことを願うものである。

残念ながら「書作のための研究」が日本の研究状況であって、「学術としての研究」は将来に期す状況にあると言わざるを得まい。ただし、これは傅山だけに限った現状では無い。

最後に、以上の資料から見る限り、日本における傅山研究の重点は書法にあると言える。とはいえ、思想（本間次彦）、音韻学（濱口富士雄）、医学（戴昭宇、尹香花、申玉華、尤昭玲）などの成果もある。総じて言えば、全面的、系統な研究とは言えないので、今後全面的、系統的な傅山研究が進むことを期待したい。

【補記】 本稿は、2007年7月30日に開催された、中国山西省太原市政府主催《紀念傅山誕辰400周年學術研討會》における演題「關於日本研究傅山的簡介1994—2007」（原文中文）を加筆訂正したものである。なお研討會時に配布された、趙宝琴／李月琴主編《傅山紀念文集》山西出版集團／山西人民出版社2007年7月出版の624頁～628頁に、「關於日本研究傅山的簡介1994—2007」を収録して頂いたが、図版をすべて割愛されたため、本稿ではその図版を数点掲載しておきたい。

四、おわりに

まず上記の書道関連の刊行物についてまとめたい。

日本では、傅山の書道作品は人気があり、上述のように何点も刊行されている。分類すれば、A作品類とB研究類に大別できる。(両者に跨る書籍も数点ある。)

A 作品類

① 傅山の書法作品

- 1、白紅社『傅山行書冊』
- 2、同朋舎出版『書学大系 碑法帖篇 第41巻 傅山』
- 3、第15回由源展『傅山・祁豸佳・名硯』
- 4、近代書道研究所『臨傅山漢古詩帖』
- 5、二玄社『傅山書注子虚賦原稿』(江兆申編『明清書法叢刊 第2巻』所収)
- 6、二玄社『傅山の書法』
- 7、道風記念館『明清の書図録』
- 8、二玄社『條幅名品選4：傅山』
- 9、天来書院『大きな条幅手本 中国明清編上巻』

② 日本人の臨書作品

- 10、大沢雅休『傅山草書帖』西東書房
- 11、青山杉雨『臨傅山漢古詩帖』近代書道研究所

③ 複製

- 12、上海博物館蔵法書『傅山草書雙壽詩』二玄社複製

B 研究類

④ 注釈書

- 13、「論書傅山」近藤墨水解説(『精萃図説書法論』西東書房)

⑤ 研究書

- 14、吉川蕉仙、福本雅一著『書学大系 碑法帖篇 第41巻 傅山』同朋舎出版
- 15、内山知也監修／明清文人研究会編『傅山』芸術新聞社
- 16、山内観編『傅山の書法』二玄社
- 17、石川九楊編『書の宇宙』第18冊、二玄社
- 18、小野寺啓治「董其昌と傅山の卷子」(季刊書道ジャーナル66号所収)

三、1994年以前の研究状況の補足

◎松丸東魚編『傅山行書冊』白紅社、1973.

◎吉川蕉仙、福本雅一著『書学大系 碑法帖篇 第41巻 傅山』同朋舎出版、1986/4.

◎江兆申編『明清書法叢刊 第2巻』二玄社、1987/5.

黄道周書汪石蓮墓誌銘、傅山書注子虚賦原稿、王鐸書詩文稿。

◎桑原呂翁編、飯島太千雄編『臨学名品大系4 大沢雅休〈傅山草書帖〉』西東書房、ISBN 4-88098-304-7、1987.7. 〈解説〉昭和二十八年、六十二歳で没した雅休の多角的な展開の仕方は、正に瞠目すべきことであつた。農民運動、綴方教育、ホトトギスに俳句、短歌はアララギ会員、植物・鳥・魚に詳しく、図画科の免許を持つなど、点描するだけでも打たれる。書は海鶴につき、後に天来に学んだが、その書活動も多彩を極めた。多才にして縦横なるその表現は、「現代書道」を一挙に完成の領域に進めたと評価された。刹那刹那の集中没我と純粹の行動所産、それが雅休の芸術であり書であると、彼は強く主張したが、この作はその通りの所産であろう。所謂明清派の人の臨でない所が面白い。大内魯邦氏蔵、別冊付録：田宮文平解題、北川博邦釈文・字説（1冊24cm）。

◎『精萃図説書法論 第四巻 元・明』西東書房「論書 - 傅山」近藤墨水解説、1989/5.

◎三岡天邑、辻本邑園、渋谷花径編『傅山・祁豸佳・名硯』由源社、1991. 第15回由源展。1991年6月1日-3日、マイドームおおさか。

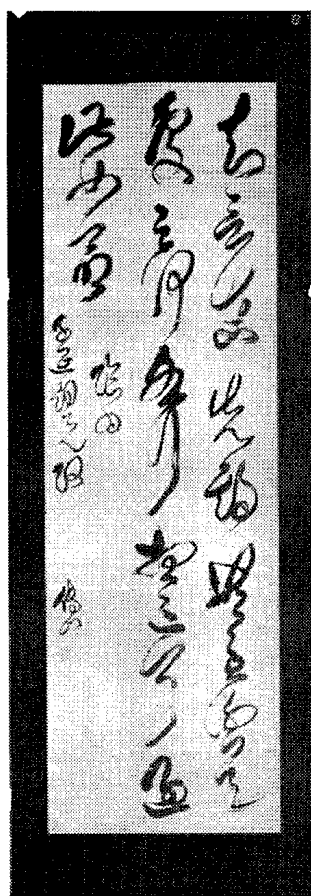
◎『傅山草書雙壽詩』二玄社、1993/11. 上海博物館蔵法書複製。別冊付録：解説・釈文：鍾銀蘭、福本雅一。

◎青山杉雨『青山杉雨臨傅山漢古詩帖』VOL:1、VOL:2 近代書道研究所、1997/10.

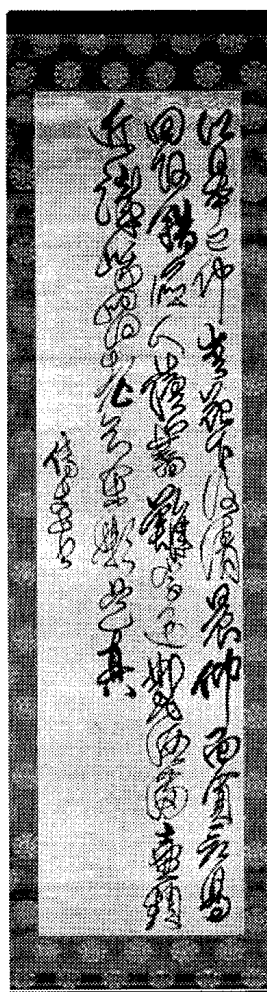


大沢雅休〈傅山草書帖〉

C25777 臨王羲之書軸



C25778 草書五言律詩軸



27912 草書五言律詩軸



◎京都国立博物館 <http://www3.kyohaku.go.jp/cgi-bin/search.cgi>

次の二点が紹介されている。

臨王獻之書 紙本墨書 167.3 × 46.9cm B 甲 762 石黒豊次氏寄贈

五律「老景信口」 紙本墨書 189.8 × 48.9cm B 甲 826 森岡峻山氏寄贈

◎澄懷堂美術館藏《傅山遊仙詩十二屏》は、非常に有名な作品であるが、残念ながらネット上に図版が無い。

問題をいささか検討してみたい。

◎ 2003/9 『人民画報』 文化と芸術「太原市の誕生 2500 年を記念して」 文 / 王蕾、写真 / 周青先

(参照 : <http://www.rmhb.com.cn/chpic/htdocs/rmhb/japan/200309/8-1.htm>)

「傅山は傑出した思想家、偉大な愛国者であるばかりでなく、著名な書画芸術の大家でもある。太原市の傅山書法碑林公園は、古朴な趣を持った氣勢雄大な庭園で、市街地では稀に見る自然を味わえる憩いの場である。」

4 ホームページに掲載される博物館収蔵品

◎ 東京国立博物館

<http://www.tnm.go.jp/jp/servlet/Con?pageId=F02&processId=00&start=1&Title=&Artist=%98%FA%8ER&Site=&Period=&FromNo=&ToNo=> (TOP >> 名品ギャラリー >> 図書・写真検索 >> カラーフィルム検索 >> 写真一覧)

カラーで傅山の書法作品が紹介されている。フィルム番号と作品名は次の通り。

C25777 臨王羲之書軸 紵本墨書 154.0 × 47.6cm TB1265

C25778 草書五言律詩軸 紵本墨書 236.0 × 49.8cm TB874

C27912 草書五言律詩軸 絹本墨書 199.8 × 45.3cm TB1503 林宗毅氏寄贈

C35360 草書五言絶句四首屏 紵本墨書 194.3 × 48.0cm TB1612

C35361 草書五言絶句四首屏 紵本墨書 194.3 × 48.0cm TB1612

C35362 草書五言絶句四首屏 紵本墨書 194.3 × 48.0cm TB1612

C35363 草書五言絶句四首屏 紵本墨書 194.3 × 48.0cm TB1612

http://www.tnm.jp/jp/servlet/Con?pageId=B07&processId=00&event_id=3982&event_idx=1&dispdte=2007/03/06 にも次の二点の記載がある。

臨王羲之書軸 (高島菊次郎氏寄贈 : TB-1265、C25777 に同じ。)

真行草墨宝冊 (高島菊次郎氏寄贈 : TB-1263、ネット上に図版無し。)

- ◎愛知県春日井市 道風記念館『明清の書図録』：祝允明・文徵明・米萬鍾・董其昌・傅山・金農・鄧石如・趙之謙・何紹基・楊守敬・羅振玉ら中国の明清時代の書。1997.
- ◎石川九楊編『書の宇宙』第18冊：それぞれの亡国 [明末清初]、96頁、ISBN4-544-02218-5、1999/3.
- ◎「董其昌と傅山の卷子」季刊書道ジャーナル66号（2001夏）、2001/8.
小野寺啓治「董其昌・傅山と現代の書」
伊藤忠綱「董其昌と傅山の草書」「人物・董其昌と傅山」
（参照：http://www.shodo-journal.com/quartely/no/q_back_no/qb-66.html）
- ◎『書跡名品叢刊第24巻』二玄社、2001/1. 傅山 八大山人 金冬心 鄭板橋 劉墉等。
- ◎成瀬映山監修／種村山童解説『條幅名品選4：傅山』二玄社、48頁、ISBN4-544-00574-4、2000/2.
- ◎北川博邦監修／石井清和編著『大きな条幅手本 中国明清編上巻』天来書院、ISBN4-88715-159-4、張瑞図・黄道周・倪元璐・王鐸・傅山・八大山人・劉石菴、7人28点、2004/4.

3 その他

- ◎中村重勝「解説：傅山七言聯」今井凌雪主幹「新書鑑」2004/7.
- ◎日本中国学会第58回大会（大東文化大学）2006/10/9、濱口富士雄「傅山の古音の認識について」司会：平田昌司（京都大学）

〈発表要旨〉傅山における反理学の思想的立場を背景とした仏学や諸子学さらには医学、また文字・音韻・訓詁の小学に関する研究から詩文や書画にわたる博学の内実は、近年その遺著の発見と整理とが進むにつれていっそう明らかになるとともに学術史上の位置も定まってきたといえよう。ところで傅山は、明朝滅亡後もその遺臣として、清代考拠学の祖とされる顧炎武と同じく反清の立場を徹底して貫くとともに、交流も深めていた。両者のこの交流を物語る古音を軸としたエピソードが、王鳴盛『十七史商榷』によって伝えられる。すなわち顧炎武が山西省太原の傅山を訪ねて泊まった翌朝、夜が明けても起き出してこなかったのが、傅山は顧炎武に「天明矣」と声を掛けるべく、当時顧炎武が古音研究に傾注していた事情を踏まえて古代漢語の音声を推定して「汀芒矣」と言ったところ、顧炎武はその呼び掛けの内容を理解できず、その説明を受けて顧炎武は失笑した、とされる。すでに侯外廬によって「彼の学問は博大で、特に音韻学に優れ、さらに鐘鼎文字も参考に資していた」（『中国思想通史』）と指摘されていたものの、実は傅山が推定した古音の音価は顧炎武の古音説を正しく理解し、その説に沿ったものではなかった。そこで、傅山にたいする「乾嘉の学の形成と発展に重大な影響をもった」（魏宗禹『傅山評伝』）との評価のあり方を射程に置きつつ、このエピソードが示唆する傅山の古音に対する認識とその周辺の

二、日本傅山研究状況略説 1994—2007

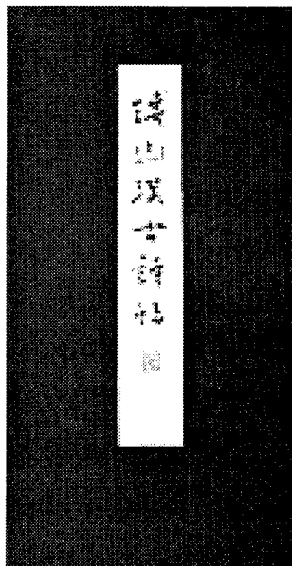
1994年から2007年3月までの間の研究状況を、1論文、2著作、3その他、4ホームページに掲載される博物館収蔵品、に分けて記述する。

1 論文

- ◎本間次彦「傅山とは誰か——「傅山全書」への序文」(Who is Fushan ? : Another Preface to the Complete Works of Fushan) : 恵泉女学園大学「人文学部紀要」Vol.9 pp.A1-A17、1997/1.
- ◎戴昭宇「名医探訪 傅青主とその医学」: 東洋学術出版社「中医臨床」Vol.25、No.1 (通号96) pp.38～41、ISSN:03894843、2004/3.
- ◎尹香花、申玉華、尤昭玲「古典『傅青主女科』種子篇における弁証施薬の特徴(特集 不妊症の治療)」: 東洋学術出版社「中医臨床」Vol.27、No.2 (通号105) pp.160～163、ISSN:03894843、2006/6.
- ◎古川徹「傅山の求めた書美」: 愛知大学「愛知論叢82」2007/3.

2 著作

- ◎山内観編『傅山の書法』二玄社 A4判・240頁、ISBN4-544-01364-X、1994/4.
- ◎「傅山漢古詩帖」近代書道研究所 原色シリーズ、1997.



日本傅山研究状況略説 1994—2007

河内 利治 (君平)

一、はじめに

1994年5月25日、内山知也監修／明清文人研究会編『傅山』が芸術新聞社から出版された。全280頁からなる本書の目次は次の通りである。

傅山の生涯：内山知也（筑波大学名誉教授・文学博士）

傅山交友考：河内利治（大東文化大学教授・博士）

傅山の詩と詩論：鷺野正明（国士館大学教授）

傅山の散文：谷口 匡（京都教育大学教授）

傅山の戯曲：村田和弘（北陸大学専任講師）

傅山の書論：松村茂樹（大妻女子大学教授）

傅山の絵画と画論：内山知也

傅山年譜：池田利広（大阪教育大学准教授）

山西人民出版社《霜紅龕集》上下冊目録

傅山関係資料：河内利治編

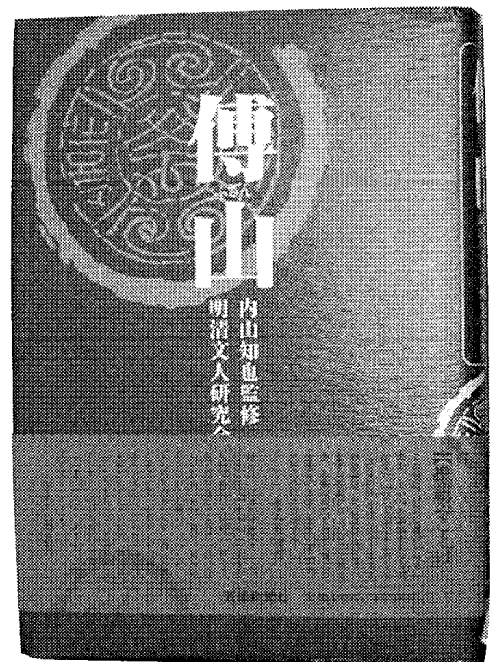
地図：鷺野正明

あとがき：河内利治

執筆者紹介

人名／地名／書名・詩文名・書画作品名／事項索引

（執筆者の身分は2007年4月1日現在のものである。）



拙編の「傅山関係資料」は、1994年本書出版当時までの、日本、中国、台湾およびアメリカにおける傅山に関する資料をできるだけ収録して編集したものである。

2007年7月の《紀念傅山誕辰400周年学術研討会》に際し、日本における傅山の研究状況を紹介して欲しいと依頼を受けた。よってここに13年を経た今日の、いくつかの著作を簡単に紹介してその責めを果たしたい。